



発行所 四国新聞社
〒760-8572
高松市中野町15番1号
©四国新聞社 2019年
ご意見・お問い合わせは
読者相談室 087-833-5552
(平日10時～17時/土日祝休)
電話 087-833局
報道部 1119 総務局 1114
運動部 1818 販売局 1124
生活部 1121 広告局 1145
事業室・文化教室 811-2300
ご購読のお申し込みは
0120-084459

薬物より治療困難

「ぼつとけない」 ゲーム依存

子どもたちを守ろう！ 識者インタビュー(上)

スマートフォンのオンラインゲームなどに過度に依存する「ゲーム障害」が、世界保健機構(WHO)に新たな疾病として今年5月正式に認定される。寝食を忘れて没頭し、家族などに暴力を振るう例も報告されており、日本など世界各国で社会問題化していることが背景にある。精神科医や教育界の識者に、ゲーム依存の実態と問題点、今後の取り組みの必要性などについて聞いた。

「ゲーム依存は薬物やアルコール依存などよりも治療が難しい」。国内初のインターネット依存治療専門外来を設立した第一人者で、久里浜医療センター(神奈川県横須賀市)の樋口進院長(64)はゲーム障害の恐ろしさをこう指摘する。WHOに新疾病認定を働き掛けてきただけに、認定の意義を喜ぶ一方、依存の未然防止、脱却への課題はまだ多いとの見解を示した。

久里浜医療センター 樋口進院長(64)

昨年8月に「インターネット依存の疑いがある」という中高生の人数を全国推計で93万人と発表した。数字はここ5年間で倍増している。この中で、恐ろしいのが「ゲーム依存症」だ。久里浜に来る患者の多くはゲーム依存症で男性が圧倒的に多く、平均年齢は19歳。中高生が半分を占め、未成年者が7割程度となっている。

「ゲーム依存の症状で具体的に多いものは、樋口 昼夜逆転などの生活の乱れから成績が大幅に低下する。親が注意すると逆上し、ゲームやスマホを取り上げるなどすれば暴力に訴えることも少なくない。当院に来る家族、親が骨折する事例はたくさんある。」

「勉強への影響は、樋口 中・高一貫校の生

きょうの紙面



「寒参り」始まる
小寒から大寒の間に小豆島八十八カ所霊場を巡礼する「寒参り」が始まった。(13面で詳しく)

- 14 運動「毎日」4割止まり
18年度高松の小中学生
- 2 首相、改憲議論進展促す
- 3 外国人労働相談、広がらず
- 8 錦織3年ぶり12度目ツアー制覇
- 9 高校バレー、男子多度津16強入り
- 15 コカイン摘発増加傾向

(紙面及び記事の無断利用を禁じます)

社会全体で取り組みを



樋口 進(ひぐち・すすむ)
1979年東北大学医学部卒。米国国立保健研究所、国立久里浜病院臨床研究部長などを経て、現職。専門は臨床精神医学、アルコール関連問題、インターネット依存など。WHO専門家諮問委員(薬物依存・アルコール問題担当)などを務める。神奈川県藤沢市。64歳。

徒が高校に上がれないケースもかなりある。期待する大学に行けず、モチベーションが上がらないため能力を生かせない。放置しておくと、若者の将来が駄目になってしまつことが一番の問題だ。

「この病院ではどう対応しているのか。」
樋口 まずは入院してもらつ。ゲーム以外のことを全く考えられなくなっているからで、その状態では治療できない。一定期間ゲームのできる環境から離してやることで精神状態を落ち着かせ、その段階になってから医師による面談などを進めていく。

「依存症になるのは何歳からか。」
樋口 薬物やアルコール、ギャンブルなど依存症にはさまざまなものがあるが、一番治療が難しいのがゲーム。オンラインゲームはおもしろいようにつくられていくし、終わりがなく、やめようと思ってもゲームの向こうには相手がいる。また、脳の中で理性をつかさどる前頭葉の部分は成人するまでは働きが弱いことに加え、ゲームに依存している子どもは、前頭葉の一部が萎縮するというデータも出ている。

「家庭での対応は。」
樋口 依存にならないようゲームを始める段階で親がルールをつくり、守れなかったときは「ゲームを取り上げる」などの罰則をきちんと励行することが第一だ。ただし、依存症になった時は家庭だけで対応するのは絶対に無理。ただでさえ、中高生は反抗期。医療機関や学校の先生、スクールカウンセラー、友達の間からサポートすることができれば、あきらめもつき、ゲームから離れられる。

「参考になる海外の例はあるか。」
樋口 まずは治療に当たる医師の絶対数を増やすこと。韓国では夜中にネットを遮断する法律をつくっている。日本でも、学校や地域でも子どもたちを見守っている。日本でも、学校や地域でゲームへのアクセスを制限する環境づくりが欠かせない。

ゲーム障害が病気になる時

ゲーム依存

子どもたちを守ろう！

「数学の割合は高い」と感 依存が疑われる国内の中高 生は93万人で5年前の前回 調査から倍増。実態は、 調査から倍増。実態は、 調査から倍増。実態は、 調査から倍増。実態は、

WHOが認定

中毒の若者 全国で急増

「ゲームの割合は高い」と感 依存が疑われる国内の中高 生は93万人で5年前の前回 調査から倍増。実態は、 調査から倍増。実態は、 調査から倍増。実態は、

- WHOのゲーム障害の定義
- ゲームをする時間をコントロールできない
 - 他の関心事や日常生活よりゲームを優先する
 - 問題が起きててもゲームを続けたり、よりのめり込んだりする
 - 家族、社会、学業、仕事などに重大な支障が出る

こうした症状が12カ月以上続くと「ゲーム障害」(重症の場合はより短期間でも診断)



や薬物など他の依存対策に 比べ後手に回っている。子 どもを含め誰でもかかる危 険性があり、治療にいく にもかわらぬ。 ゲームそのものが悪いわ けではないが、現実には中 毒になり、苦しむ若者や家 族は増えている。危機は目 前に迫っている。病気を認 定したWHOの動きは、現代 社会への警告でもある。

第一部 迫る危機①

ゲーム障害が病気になる時

「昔の子どももアレだを 見過ぎて親に叱られてい る見出しだ。それがゲーム ネット依存対策は、アルコー ルになった」ところを

ゲーム依存

子どもたちを守ろう！

スマートフォンにはまり すぎると、あなたはいろん なものを失ってしまう。 スマホを手にする年齢は 年々、低下している。オン ラインゲームや動画配信 サイト(SNS)、動画視 ション能力が上がる。

心身への影響(上)

昼夜逆転し、生活が破綻

スマートフォンにはまり すぎると、あなたはいろん なものを失ってしまう。 スマホを手にする年齢は 年々、低下している。オン ラインゲームや動画配信 サイト(SNS)、動画視 ション能力が上がる。

「人気があつたように、 ゲームにのめり込んで部屋 から出てこない」 「ゲームをやめようよ注 意したり、ゲーム機を取り 上げたりすると、暴れて手 が付けられない」

第一部 迫る危機②

ゲーム障害が病気になる時

スマートフォンにはまり すぎると、あなたはいろん なものを失ってしまう。 スマホを手にする年齢は 年々、低下している。オン ラインゲームや動画配信 サイト(SNS)、動画視 ション能力が上がる。

「人気があつたように、 ゲームにのめり込んで部屋 から出てこない」 「ゲームをやめようよ注 意したり、ゲーム機を取り 上げたりすると、暴れて手 が付けられない」

心身への影響(下)

脳に異変、理性が弱まる

スマートフォンにはまり すぎると、あなたはいろん なものを失ってしまう。 スマホを手にする年齢は 年々、低下している。オン ラインゲームや動画配信 サイト(SNS)、動画視 ション能力が上がる。

「人気があつたように、 ゲームにのめり込んで部屋 から出てこない」 「ゲームをやめようよ注 意したり、ゲーム機を取り 上げたりすると、暴れて手 が付けられない」



交通死亡事故多発中 讀ブロック警報発令 18日

ネット依存予防教育を

専門家ら対策探る

横浜でフォーラム

インターネットやゲームのやり過ぎで生活に支障が出る「ネット依存」が社会問題化する中、国内外の専門家対策を探る「第2回国際ギャンブル・ネット依存フォーラム」が12日、横浜市内であった。ゲーム産業の急速な発展の傍らで、世界保健機関(WHO)が新たに疾病に加えるなど、とりわけゲーム依存が若い世代で深刻化している現状を紹介。予防教育の充実や行政などによる規制を求める意見が上がった。

ほっとけない 「ゲーム依存」

国全体で取り組み必要

国内初のネット依存外来を開設した久里浜医療センター(神奈川県)が主催。ネット依存同様、社会問題化しているギャンブル依存をテーマに加えたフォーラム



国内外の専門家がゲーム依存などの対策を探った「国際ギャンブル・ネット依存フォーラム」＝横浜市

ムは昨年に続き2回目、国内外の医療、教育関係者ら約300人が参加した。ネット依存に関し、豪アデレード大のダニエル・キング主任研究員は、思春期の若者が陥りやすいとした上で、オンラインゲームの現状を「多くのゲーム会社がどれだけ長くプレイし、お金を使ってもらえるかを考えている」と説明。効果的な予防には「本人だけでなく家族、学校、医療現場、政府の連携、さらにはゲーム業界の協力も必要ではないか」と訴えた。

「ネット・ゲーム依存対策に教育現場が対応しきれない」としたのは、和歌山大教職大学院の豊田充崇教授。授業カリキュラムがないことや教師がゲームに詳しくないことが背景に

あるとした上で「予防教育は学力向上や判断力の育成につながる。小中学生に多くとみられる依存症予備軍を抽出し、自覚を促す必要がある」と予防教育の実践を呼び掛けた。ゲーム依存から回復した20代の男性も講演。約2年間引きこもりになり1日12〜14時間ゲームをし、昼夜逆転の生活を送っていた当時を「生きる目標もなく、他にやることもなかった」と振り返り、回復のきっかけを「母や友人の支援もあり、ゲーム依存を自覚し

た。背中を押してくれるきっかけが必要」と述べた。久里浜医療センターの樋口進院長は「ゲーム依存の問題は、もつ家族や学校の先生の個人的努力に任せておけるレベルではなくなっている。国全体で取り組む必要がある」と総括した。